生徒同士の読みの交流による「読むこと」の指導の改善

峰　本　義　明

Abstract

In the learning of reading, it is important for students to exchange their ideas, thoughts and comprehension after reading. But the traditional Japanese language classes have not had many such activities. So in this research, I adopted the activity of reading reports, in which the students summarize their own understanding and feelings about the book. Prior case studies haven't given the students sufficient opportunities to express and know each other's feelings or opinions about books. Therefore, in this study, an improved form of reading report and the electronic bulletin boards were employed in order to activate the students to interchange their ideas after reading. The result of this study is that the students have made progress in their reading and writing skills and have deepened their thinking.

キーワード……読みの交流、読書レポート、電子掲示板、高校国語、読者反応理論

1　読むことの指導における問題点

現行の高等学校学習指導要領（1999 年）の「国語総合」の３内容の取扱いにおいて、「Ｃ読むこと」の指導について示された言語活動の中に「(ア) 文章に表れたものの見方や考え方などを読み取り、それらについて話し合うこと」[1)]が挙げられている。「読むこと」の指導においては文章を読解することだけでなく、読み取った内容について生徒同士で互いに話し合って自分の考えを確認するとともに、他人の考えも聞いて、自らの考えを広げていくのは大切なことである。

しかし、現実の授業ではそうした機会をなかなか設けられないのが実情である。評論の授業の場合は、文章の構成の確認、要約作成、指示語の内容の確認、難解表現の解説などを行う。しかし、それらの作業が終わると次の教材へと移ってしまう。読み取った内容を基に生徒同士で考えを交流させる活動はほとんど行われない。小説教材の場合もほぼ同様である。授業後に登場人物の生き方について感想を書かせることはあるかもしれないが、主題を説明する時間の余りに感想をわずかに書かせて、教師に提出させて終わり、である。そこには教師の読みが生徒へ一方的に伝達されることはあっても、生徒の読みが学習者同士で交流され、各自の読みの違いについて議論することはきわめて少ない。これでは読むことを通して自らの考えを広げさせることは不可能である。

これは、大学入試に対応するために、より正確な読解力を身につけさせたい、という教師の願いによるものであると考えられる。確かに、大学入試対策に限らず文章の内容を正確に読み取るということは必要な能力である。だが「読むこと」とは文章から一方的に情報を受容するだけでなく、「読むこと」によって得た考えを発信し、その考えに対する反応を受け取って考えを広げていくという、双方向的でダイナミックなものである。現在の高等学校の授業ではそうした「読むこと」における双方向性が働かず、内容を読み取ること、つまり情報を受容することにあまりに偏っているのが現状である。

2　読みの交流を起こさせる方法について

2.1　読みの交流の重要性—読者反応理論—

高等学校学習指導要領に挙げられている「文章に表れたものの見方や考え方などを読み取り、それらについて話し合う」ことが学習に必要であるという考え方は、「読者反応理論」に基づいたものであると考えられる。

「読者反応理論（reader response theory）」は、ルイーズ・ローゼンブラット（Louise M. Rosenblatt）が 1938 年に提唱したものなどが始まりである。吉田新一郎[2)]は彼女の理論を紹介しながら、「読む力」を効果的につける方法について紹介している。

吉田が紹介するローゼンブラットの主張によれば、テキストとは「読者によって解釈され、意味がつくり出されて初めて作品になる」[3)]ものである。そして、「読むことは、自分の考えを変えたり、感想が変わったり、それまで知らなかった新しい事実や視点に気付いたり、多様な感情や気分を味わうなど、変化に富んでワクワクするもの」[4)]だとも言っている。つまり、「読者反応理論」によれば、読者が文章を読み、それによって様々な考えや感情を持つことが「読むこと」であり、生徒は文章を読んで得た自らの反応を表出する機会を与えられ、訓練されてこそ「読む力」が育成されることになる、と言える。

また、吉田はローゼンブラットの考えとして、「各自の反応だけを重視するわけではありません。子ども達同士が互いに話し合ったり聞き合ったりすることを同じレベルで大切にしています。それによって、まず何よりも多様な解釈があることに気付けますし、他人に自らの反応を話すことはより良く考えることも意味します。そして、他の人達の反応を聞くことで、自分の思い込みや気付かなかったこと、そして大事な点などを補うこともできます。」[5)]ということを紹介している。つまり、テキストを読んで、そこからどんな反応や感想を持ったかを生徒同士が互いに話し合ったり聞き合ったりすることで、生徒の読む力を育成することができると言える。引用箇所では「話すこと・聞くこと」のみが取り上げられているが、「書くこと」によっても生徒同士の読みの交流を行わせることは可能だろう。

したがって、ある共通のテキストに基づいて生徒が抱いた反応や感想を書いた文章を互いに

読み合う活動を行わせることで、多様な解釈があることに気づかせ、自らの考えを広げさせることが重要である。

2.2　読みの交流を起こさせる読書レポートの形式

生徒が本や文章を読み、その読みを生徒同士で交流させる先行事例として、竹長吉正の「読書レポート」[6]を挙げることができる。竹長は読書感想文に代わる「読書レポート」の必要性を述べ、その具体的な指導法について説明している。

竹長によれば、読書レポートとは「読書した本（または、一まとまりの作品や記事）について、その内容の要点を記録し、かつ、それをある人（想定された読者）に的確に報告する文章」[7]である。この読書レポートを生徒に書かせることにより、明確な根拠に基づいて自分の意見を述べる訓練をさせることができるとしている。よって、そのレポートの内容は「A 要約　B 要旨　C 批評」[8]の 3 部構成で書くのが有意義である、としている。

つまり、竹長の読書レポートは、「その本を読んだ者」が「その本を読んだことのない者」に紹介するという構造を持っている（図 2.1 の上を参照）。そのため、その本がどんな内容のものであるかという情報を与える「要約」「要旨」の部分が必要であり、さらにその本に対する読者の読みとして「批評」の部分がある、と考えられる。

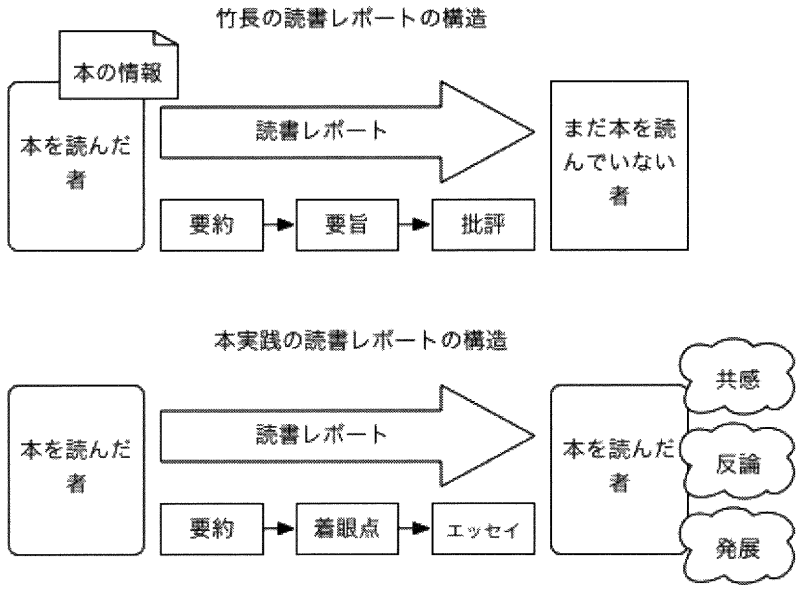


図 2.1　竹長の読書レポートと本実践の読書レポートとの構造比較（峰本作成）

だが、この構造は先の読者反応理論における「本によって得た反応をお互いに交流させる」活動においては不適切である。読書レポートを読む者は、「その本を読んだことのない者」であ

る。したがって、話題となる本についての知識を持っていない者は、その読書レポートを読むことによって本についての知識を得ることはできるが、本を通じてお互いの読みを交流させることはできない。

その欠点を補うためには、「本を読んだ者」が「同じ本を読んだ者」との間で読書レポートを介すことによって互いの読みを交流させる、という活動が必要である。そのためには読書レポートの形式も別のものが必要である。

そこで、池田修による「書き抜きエッセイ」[9]が参考になる。これは本を読んで得た「着眼点」を本文から抜き書き、それに対して3つの観点のうち1つを選んでエッセイを書くというものである。その3つの観点とは、①共感、②反論、③発展である。この形式において、本を読んで得た「着眼点」を抜き書きさせることは有意義である。同じ本を読んだ者同士で読みを交流させる場合、読者が違えば着眼点も違う。それを互いに紹介し合うことで、多様な読み、多様な解釈があることを知ることができる。そして、それに対して3つの観点からエッセイを書くことも意義がある。同じ本を読み、同じ着眼点を得た者同士が読みを交流する場合、観点が3つあることによってやはり多様な反応があることを知ることができる(図2.1の下を参照)。

そこで、本実践では生徒同士の読みの交流を目的とするため、池田の書き抜きエッセイの形式を導入して、読書レポートを書かせることとした。

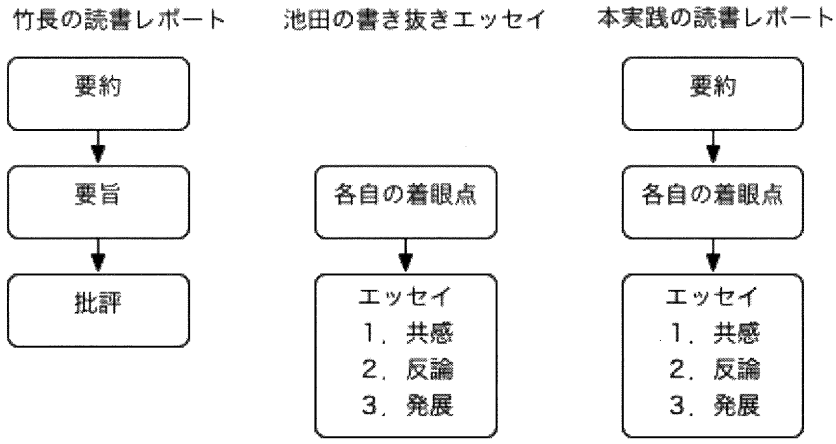


図 2.2　竹長・池田・本実践の読書レポート（書き抜きエッセイ）の構成比較（峰本作成）

2.3　読みを交流させる方法

竹長の読書レポートでは、作成したレポートを交流させる方法も紹介している[10]。竹長によれば、作成した読書レポートを別の生徒に読ませ、評価させる。その際にチェックリストを基準にさせる。このチェックリストは「主題の明確さ」「構成の適切さ」「具体的な事柄の有無」「創造性の有無」「語句の正確さ」「分量の適切さ」「全体の調和」などの項目で構成されている。

この評価を参考にしてレポートの筆者に自らの文章を推敲させる。それをさらに別の生徒に読ませて再評価させ、それを参考にして筆者にレポートを完成させる（図 2.3 の左を参照）。

この方法によれば、レポートの完成度は高まるかもしれない。しかし、図 2.3 にも示したとおり、この方法では読みの交流がジグザグに動くものの、基本的に一直線であり、多様な交流をさせるものとは言えない。よって、生徒自身の視野を広げ、主体的に考えを深めさせることはできない。

そこで、多様な読みの交流を行わせるためには、各自の着眼点に基づくエッセイという読書レポートを書かせ、それを同じ本を読んだ者同士で互いに読ませて、多様な方面からコメントを付けさせ、それを参照してレポートの筆者にまとめを書かせることが有効である。

さらに、この読みの交流をより効果的に行わせるためには、インターネット上の電子掲示板を活用することが有効である。自分の読書レポートを電子掲示板に投稿することにより、同じ本を読んだ生徒からコメントをより多く受けることができる。

そこで、本実践では以上のことを踏まえて、読書レポートを媒介にして読みの交流を起こさせることとした。そして、読書レポートの形式として、池田の「書き抜きエッセイ」を踏まえ、さらに要約も書かせることにした。生徒が本の内容を正確につかんでいるかどうかの確認のためである。さらに、その場としてインターネット上の電子掲示板を活用し、読みの交流がより活発に起こることを狙った。

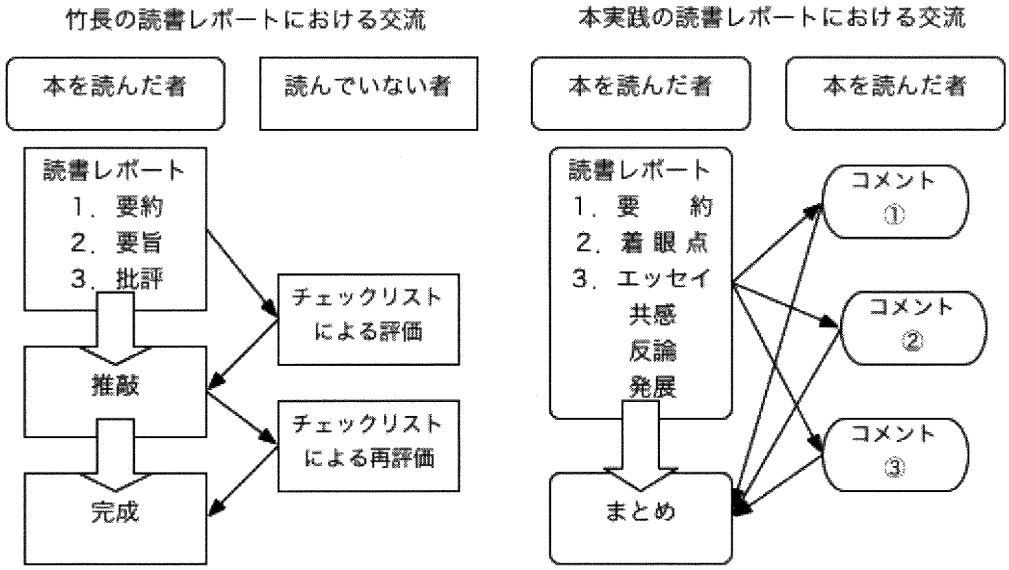


図 2.3　竹長のレポートと本実践のレポートの交流の形態の比較（峰本作成）

3　実践の概要

3.1　対象

本実践の対象は、新潟県立新潟高等学校第1学年392名（男子216名・女子176名）である。10クラスであり、普通科8クラス、理数科2クラスである。

3.2　実施期間

平成22（2010）年11月～平成23（2011）年1月に実施した。

3.3　実践の概略

第1次　課題図書として4冊の新書を指定し、生徒に選択させ、期日までに読むように指示する。

第2次　インターネット上に設けた課題図書ごとの電子掲示板に各自でアクセスし、読書レポートを書かせる。

第3次　自分の読んだ課題図書用の電子掲示板に各自でアクセスし、同じ本を読んだ者のレポートを2編以上読んで、感想のコメントを付けさせる。

第4次　電子掲示板に各自でアクセスし、自分の読書レポートに寄せられたコメントや、他の読書レポートを読んで、最終的なまとめを書かせる。

3.4　実践の経過

3.4.1　第1次　課題図書の指定

読書レポートを生徒に課すに当たり、全体のテーマを設定した。今回のテーマは「国際理解・異文化理解を深めよう」とした。これは生徒の在籍校が、1学年の指導項目として「国際理解教育」を挙げているからである。

課題図書として次の4冊を選び、生徒に紹介した。選書は生徒の在籍校の学校司書の全面的な協力を仰ぎ、高校1年生が少し背伸びして挑戦できるような内容のものを選んだ。

①『異文化理解』青木保著　岩波新書（2001年7月初版）

グローバリゼーションが進み、日常的に接触している異文化を正しく理解するために、文化人類学者としての体験や知見を展開しながら真の相互理解の手がかりを探るもの。

②『旅に出よう』近藤雄生著　岩波ジュニア新書（2010年4月初版）

将来への不安や悩みを抱えながら海外へ旅立った著者が、旅で出会った様々な人々の姿を通して「生きること」の意味を探るもの。

③『国際協力と平和を考える50話』森英樹著　岩波ジュニア新書（2004年2月初版）

日本を取り巻く平和への不安要素も増している今、日本の国際協力はどうあるべきなのか、日本の安全をどのように保証すべきなのか、身近な50の話題で解説するもの。

④『世界を知る力』寺島実郎著　ＰＨＰ新書（2010年1月初版）

日本の政治状況や国際関係が変化し、戦後体制が変わろうとしている今、私たちはい

かにして正しい認識を持ち、望ましい未来を描きうるのかを考えるもの。

上記 4 冊から 1 冊を生徒に自由に選択させ、希望者には校内で販売した。そして、1 ヶ月ほどの期間を設けて生徒に本を読ませ、全員が読書レポートを掲示板に書き込むよう指示した。

3.4.2　第 2 次　生徒各自の読書レポート書き込み

4 冊の課題図書それぞれに電子掲示板をインターネット上に設置し、生徒に自分の読んだ本の掲示板に読書レポートを書き込ませた。

各課題図書の電子掲示板は以下のＵＲＬである。

①『異文化理解』　http://0bbs.jp/10ibunka/

②『旅に出よう』　http://0bbs.jp/10tabi/

③『国際協力と平和を考える 50 話』　http://0bbs.jp/10kokusai/

④『世界を知る力』　http://0bbs.jp/10sekai/

この掲示板はインターネット上に無料で公開されている掲示板サービスを活用した。この掲示板は以下の特長がある。

・掲示板の設置、メンテナンスがインターネット上から可能であり、扱いも容易である。

・ＰＣからだけでなく、携帯電話からも閲覧・書き込みが可能である。

・生徒が書き込みをすると、管理者である筆者宛にメールが届く。これにより提出状況を把握できるとともに、誹謗・中傷の書き込みがあった場合に、速やかに対処できる。

生徒に書かせるレポートの内容は以下の 3 点とした。

①本全体の要約を書く（200 字程度）。
②本を読んで、各自が得た着眼点を書き抜く。
③書き抜いた着眼点について、次の書き出しから 1 つ選び、エッセイを書く（400 字程度）。
　1「～とある。実は私も～だったことがある。」（＝「共感」）
　2「～とある。ところが私の場合は～だったのだ。」（＝「反論」）
　3「～とある。同じような話を聞いたことがある。それは～」（＝「発展」）

これらの書き出しは、先述した読書レポートの構成における、各自の着眼点に対する「共感」「反論」「発展」にあたるものである。

このレポートを下書きさせてから、電子掲示板にアクセスして書き込むよう指示した。また、インターネットに接続する環境がない生徒のために、別途日を設けて生徒の在籍校のＰＣ教室を利用して電子掲示板にアクセスさせた。

なお、電子掲示板へ読書レポートを書き込む際には実名を用いるようにさせた。第 3 次・第 4 次に書き込ませるコメントやまとめもすべて実名をつけさせた。自らの発言には責任を持つよう自覚を促すためであり、読みの交流においては相手が誰か分かることが必要だと考えたためである。

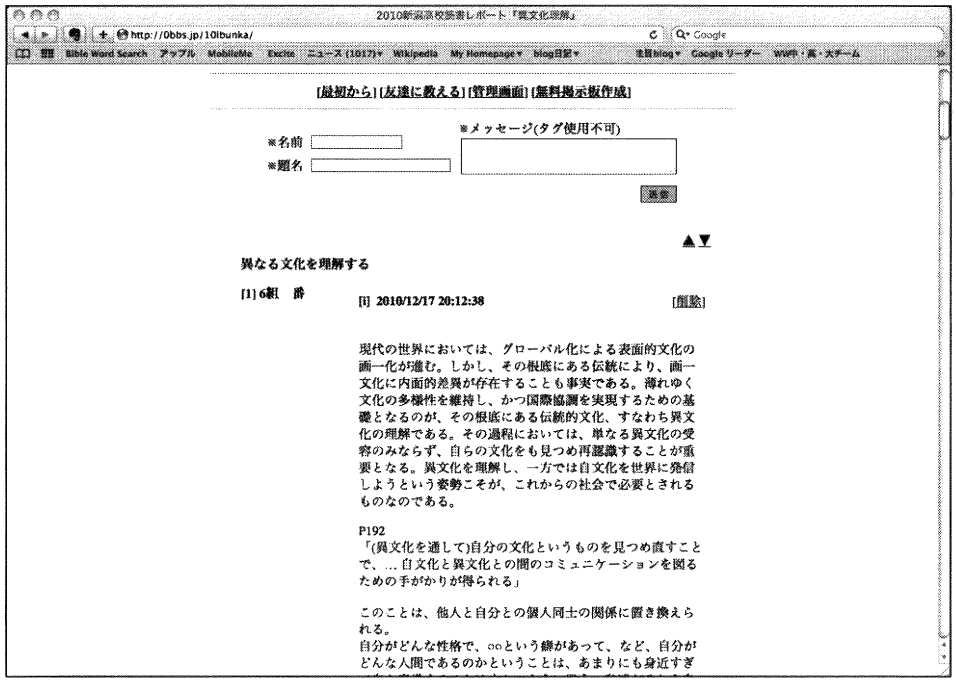


図 3.1　電子掲示板の入室画面（http://0bbs.jp/10ibunka/ より）

3.4.3　第 3 次　レポートへのコメント書き

冬期休業中の課題として、投稿された読書レポートを読み、コメントをつけさせた。

コメントを書く対象は、生徒が読んだ本の電子掲示板の中の読書レポートとした。これは、同じ本を読んだ者同士で意見を交流させるためである。

コメントを書く方法は、利用した電子掲示板のコメント機能を用いた。この掲示板はコメントをつけるとスレッド表示されるようになっている。そこで、読書レポートの右下に表示されるコメントを付けるボタンを押してコメントを書き込ませた。

コメントは最低 2 つ書き込ませた。1 つはまだ誰もコメントをされていないレポートの最初の読者としてコメントを書かせた。生徒の読書レポートに対して誰もコメントをしていないという状況を避けるためである。また、この電子掲示板は数人分を表示すると、残りを次ページに送ってしまう仕様のため、自分のレポートが何ページも後ろに送られてしまい、他の生徒に発見しづらくなってしまうからである。2 つ目以降は自分がぜひコメントしたいレポートについてコメントを書かせた。

コメントする内容については、生徒一人一人がレポートの筆者にとっての「大切な友だち」になることを求めた。レポートの筆者にファンレターを送るつもりで書き、レポートのどんなところが良かったかと、レポートの筆者が今後どうなって欲しいか期待することとを書かせた。

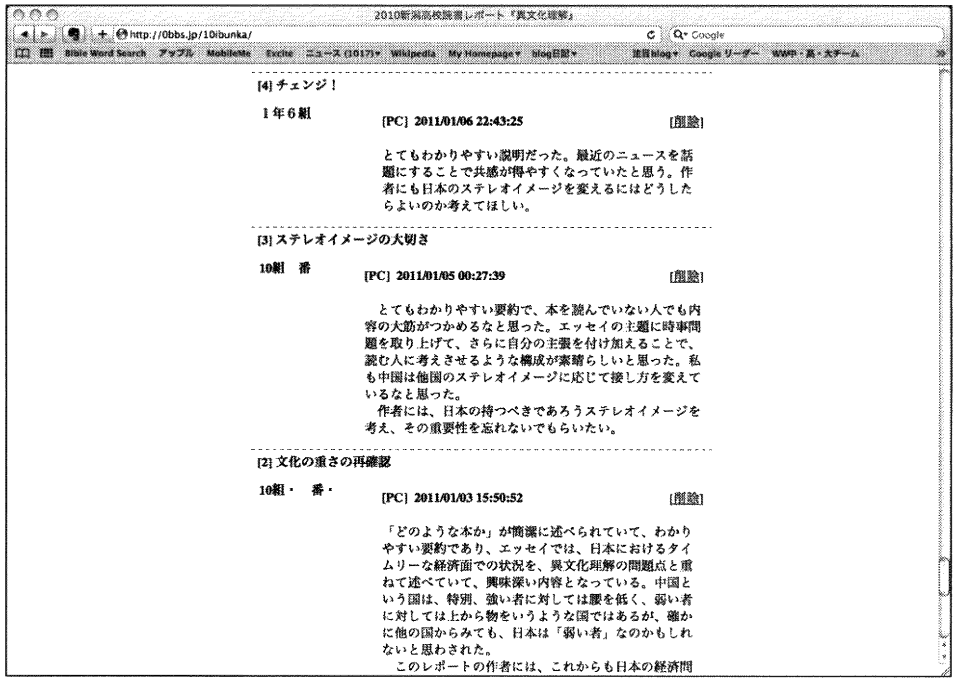


図 3.2　コメントの書き込み例（http://0bbs.jp/10ibunka/ より）

3.4.4　第 4 次　コメント及び他の生徒のレポートを読んでのまとめ

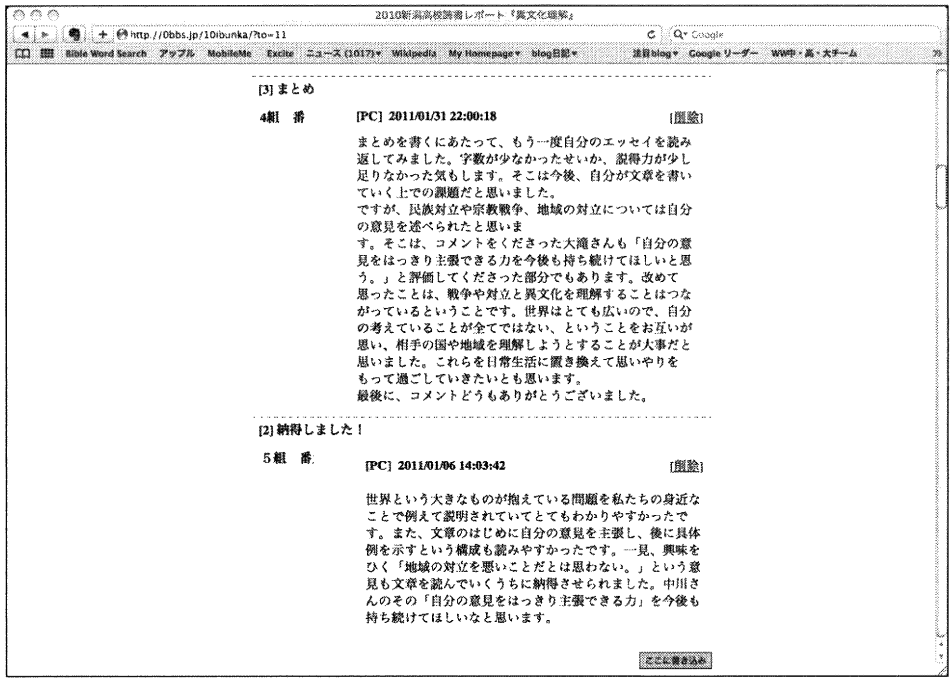
約 2 週間の期間を設けて、今回の読書レポートの最終的なまとめをさせた。

生徒が書き込んだ読書レポートには他の生徒からのコメントが寄せられている。また、同じ本を読んだ他の生徒の読書レポートも電子掲示板には載せられている。それらを読んで、生徒各自が最初に書いた読書レポートに盛り込んだ内容について、現在の考えや感想を書かせた。

まとめを書く方法は、第 3 次と同様に掲示板のコメント機能を使わせた。自分が書いた最初の読書レポートにアクセスし、寄せられたコメントや他の生徒のレポートを読んで、まとめを自分のレポートへの書き込み、という形で提出させた。

まとめを書く際には、必ず他の生徒のレポートや自分のレポートに寄せられたコメントを踏まえて書くよう指示した。そして、その生徒のレポートやコメントを引用してまとめを書くようにさせた。引用する際には「　」をつけることと、筆者の名前を書くことを指示した。

字数は 300 字程度としたが、実際はあまり厳密にはしなかった。下書きをしてから書き込むよう指示し、下書き用紙を作成して配布した。


2010新潟高校読書レポート『異文化理解』

http://0bbs.jp/10ibunka/?to=11

[3] まとめ

4組　番　[PC] 2011/01/31 22:00:18　[削除]

まとめを書くにあたって、もう一度自分のエッセイを読み返してみました。字数が少なかったせいか、説得力が少し足りなかった気もします。そこは今後、自分が文章を書いていく上での課題だと思いました。
ですが、民族対立や宗教戦争、地域の対立については自分の意見を述べられたと思いま
す。そこは、コメントをくださった大適さんも「自分の意見をはっきり主張できる力を今後も持ち続けてほしいと思う。」と評価してくださった部分でもあります。改めて思ったことは、戦争や対立と異文化を理解することはつながっているということです。世界はとても広いので、自分の考えていることが全てではない、ということをお互いが思い、相手の国や地域を理解しようとすることが大事だと思いました。これらを日常生活に置き換えて思いやりをもって過ごしていきたいとも思います。
最後に、コメントどうもありがとうございました。

[2] 納得しました！

5組　番　[PC] 2011/01/06 14:03:42　[削除]

世界という大きなものが抱えている問題を私たちの身近なことで例えて説明されていてとてもわかりやすかったです。また、文章のはじめに自分の意見を主張し、後に具体例を示すという構成も読みやすかったです。一見、興味をひく「地域の対立を悪いことだとは思わない。」という意見も文章を読んでいくうちに納得させられました。中川さんのその「自分の意見をはっきり主張できる力」を今後も持ち続けてほしいなと思います。

ここに書き込み

図 3.3　まとめの書き込み例（http://0bbs.jp/10ibunka/?to=11 より）

3.5　生徒による交流の例

生徒が電子掲示板に書き込んだ読書レポートの例と、それに対するコメントの例、さらにまとめの例を以下に示す。選択した本は『異文化理解』である。生徒名はイニシャルに直した。

生徒による読書レポート

4 組 I（女子）

【要約】現代では、異文化との日常的な接触や交流が増大している。しかしながら、我々が異文化を正しく理解しているとは言い難い。異文化間の衝突や、異文化に対する偏見、先入観による問題が数多く存在している。またその一方で、文化の画一化による影響も広がりつつある。このように文化の混在化と画一化の動きが共に存在する状況の中を、我々はまず個人の目線のレベルから異文化理解と他者の認識を基礎にすえ生きていくことが必要である。

【書き抜き】私たちが外国行って戸惑うのは、多くの場合、厳密に言葉ができないからというだけでなくて、こうしたコミュニケーションのもつ社会とその文化になじみがないからです。(p.140)

【エッセイ】実は私も文化の違いによるコミュニケーションの難しさを感じたことがある。私はこの夏、様々な国の生徒が集まる学校に通う機会を得た。ドイツや中国、メキシコ、ベトナムなど、全く違う文化を持つ人々が同じ時間を共有した。英語という共通の言語で意志疎通をしたが、苦労した面が多々あった。同じ話題でも、真剣に聞く人もいれば、笑いながら相槌をうつ人もいるし、自分が言いたいことが正しく伝わらないこともあった。作者の主張する文化の違いが原因だろうと私自身も感じ

ている。しかしそれによって友好関係が築けなかったわけではない。個人として、相手を理解したいと思い、伝わりにくい文化的な部分について説明を加えたり、質問をしたりしたのだ。その結果、同じ国の人と友達になるのと同じように、仲の良い友達になれた。異文化理解とは、個人として相手を知ることから始まる。難しいが不可能ではなく、必要だと感じた経験であった。（下線は引用者）

この生徒は、書き込みエッセイの第 1 のパターン（＝共感）を用いて本に対する共感を述べている。だが、後半で自分自身の経験を紹介し、文化の違いによる互いの理解の難しさを乗り越えるために、「個人として、相手を理解すること」の重要さを主張している。

このレポートに対して 3 人の生徒がコメントを寄せた。

第 1 のコメント

9 組 S（女子）

まず、文化の違いを実感したことがあるということが凄いと思いました。私は勇気がなく、先日新潟高校に来た留学生とも、全く会話することができませんでした。それだけでなく、I さんは、意志の疎通をし、外国の人と仲良くなりました。このことは、私のような未経験者には、遠い話のようである一方、I さんの表現が身近に感じられるので、勇気を与えてくれることでした。

今後も、異文化との触れ合いを通して、より理解を深められるといいと思います。また、その経験を生かして、私のような人を積極的に異文化に触れることができるように、手助けしてくれると嬉しいです。（下線は引用者）

この生徒は、レポートの筆者とは異なり、文化の違いを実感したことがなく、異文化の者と理解し合おうとする勇気もないことを指摘している。

第 2 のコメント

8 組 Y（男子）

まず、要約文では文化の衝突という問題点、そしてそれを解決するために私たちがしなければならないことが書いてあり、本の要旨を理解しやすかったです。

エッセイでは具体的な自分の経験を基に書かれていて、文化の違いによるコミュニケーションの難しさという文化間の問題を、自分の問題としてしっかり捉えているのはすごいことだと思います。I さんはその経験を通して、どのようにすれば「異文化理解」ができるのかを知ったようですね。経験のない私には、異文化の中で交流するという経験の重要性を気付かされました。これからも、相手を知ることで「異文化理解」をしていって欲しいです。（下線は引用者）

この生徒は異文化との交流の経験のない自分にとって、レポートの内容は認識を深めることができたことを述べている。

第 3 のコメント

4 組 T（男子）

私は外国に行って異文化を直接体験したいと考えているので、I さんの苦労が伝わってきます。そんななかで外国の人と友達になるまでコミュニケーションがとれたのは凄いですね。相手を理解した

いという気持ちの大切さがわかりました。また、異文化理解が身近なところから始まるということは、異文化に対する抵抗感や身構えてしまう感じを拭ってくれる言葉だと思います。

Ｉさんの経験は人にいい影響を与えられると思うので、ぜひみんなに経験の一部を分けて欲しいと思いました。（下線は引用者）

この生徒はレポートから「相手を理解したいという気持ちの大切さ」に気づき、認識を深めている。

これら3人のコメントを読んで、レポートの筆者は次のようにまとめた。

レポートの筆者によるまとめ

今回のレポートでは、筆者の主張から自分の考えを持ち、友人のコメントによってさらに考えを深めることができた。私は、筆者の「文化の違いによるコミュニケーションの難しさについて」の主張に注目した。そして自らの経験に基づき、個人として互いを知ることの重要性をレポートにした。T君やSさんの「身近に感じた」というコメントから、異文化理解は個人として、遠いものではないという思いが伝わったとわかり、嬉しく感じている。一方で、Y君をはじめ皆が「自分には経験がない」ということをコメントしてくれている。いくらグローバルな社会になりつつあるとはいえ、実際に異文化に触れたり、本当の異文化を知ったりする機会はそれほど多くはないことに改めて気づいた。自分自身の経験や主観だけでなく、様々な人の立場から多面的に考えを深める努力が必要であったと感じている。今回のレポートで学んだことや、友人と意見を交換することで得られたことを、今後に生かしていきたい。（下線は引用者）

この生徒は、まず友人からのコメントで考えを深めることができた、と述べている。その理由は、異文化理解が個人として遠いものではないという自身の主張が認められたことと、自分にとっては当然と思われたことが他人にはそうではないことに気づかされ、自分自身の認識を修正できたからである。そして、様々な人の立場から多面的に考えを深める努力の必要性を理解し、成長した姿を見せている。

この例のように、読書レポートを基にした読みの交流は以下の効果を上げている。

① インターネットの電子掲示板を使うことによって、より多様な相手からのコメントを引き出すことができた。

② 同じ本の読者同士でも多様な着眼点があることを、生徒に明示することができた。

③ コメントや他の生徒のレポートを読むことにより、生徒自身の考えを広め、認識を深化させた。

4 アンケート結果と考察

4.1 アンケート結果

読書レポートを提出させてから16日後にアンケート調査を実施した。

アンケート項目は資料 4.1 の通りである。回答者数は 386 名であった。

資料 4.1　読書レポートについてのアンケート（峰本作成）

第２回読書レポートについてのアンケート

インターネットを通じての読書レポートを終えてから２週間、そろそろ冷静に振り返ることができると思います。以下の質問に回答して下さい。

組　　番　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問１　今回の読書レポートで、あなたの持つ以下の力はどれくらい変わりましたか。

	十分向上した	まあまあ向上した	あまり変わらない	全く変わらない	どちらとも言えない
・文章の表現の特色に注意して読む力	4	3	2	1	0
・文章の内容を的確に読み取る力	4	3	2	1	0
・文章を要約する力	4	3	2	1	0
・文章の構成をとらえる力	4	3	2	1	0
・著者の意図をとらえる力	4	3	2	1	0
・ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする力	4	3	2	1	0
・相手に応じて文体や語句を工夫して書く力	4	3	2	1	0
・論理構成を工夫して書く力	4	3	2	1	0
・自分の主張に基づいて書く力	4	3	2	1	0
・適切な表現の仕方を考えて書く力	4	3	2	1	0
・他人の文章を読んで自分の表現に役立てる力	4	3	2	1	0

問２　あなたの選んだ課題図書は興味深かったですか？
4　よく当てはまる　3　まあまあ当てはまる　2　あまり当てはまらない　1　全く当てはまらない　0　どちらでもない

問３　友人の読書レポートはあなたの意見に参考になりましたか？
4　よく当てはまる　3　まあまあ当てはまる　2　あまり当てはまらない　1　全く当てはまらない　0　どちらでもない

問４　友人のコメントはあなたの意見に参考になりましたか？
4　よく当てはまる　3　まあまあ当てはまる　2　あまり当てはまらない　1　全く当てはまらない　0　どちらでもない

問５　あなたの意見は、友人のレポートやコメントを読んだ後、当初と変わりましたか？
4　よく当てはまる　3　まあまあ当てはまる　2　あまり当てはまらない　1　全く当てはまらない　0　どちらでもない

問６　あなたが最終的に意見を持つ際に、何が一番参考になりましたか？
・　友人のコメント　・　友人のレポート　・　課題図書以外の友人の文章　・　特にない

問７　読書レポートを、インターネットを通じて書くことについて、一番利点と感じるのは何ですか？
・いつでも読み書きできる　・友人のレポートやコメントがすべて読める
・普段話さない人と意見を交流できる　・その他（　　）　・特にない

問８　読書レポートを、インターネットを通じて書くことについて、一番欠点と感じるのは何ですか？
・掲示板にアクセスすること　・キーボードで文章をつづること
・掲示板の問題点（具体的に：　　）・その他（　　）・特にない

問９　インターネットを通じた読書レポートを今後も続けたいですか？
4　よく当てはまる　3　まあまあ当てはまる　2　あまり当てはまらない　1　全く当てはまらない　0　どちらでもない

以上です。

このアンケートの問 1 は、今回の読書レポートを経験してみて、どんな国語の力がついたかを尋ねるものである。これら 11 項目は現行の高等学校学習指導要領の「国語総合」における「B 書くこと」および「C 読むこと」の教える「内容」に示されている 7 項目をほぼそのまま掲載したものである。読書レポートによる読みの交流が学習指導要領に示されている内容のどれを伸ばしたのかを知るためのものである。なお、学習指導要領の文言そのままでは生徒が理解しづらいと思われるものがあったので、多少変更するとともに、一つの項目を二つに分割したも

のもある。そのため 11 項目になった。問 2 以降は、今回の電子掲示板を活用した読書レポートの実践の特性を探ろうとしたものである。

このアンケートの結果を次に示す。問 1 と問 2～5 および問 9 については χ^2 検定を行った。検定はインターネット上で公開されている「JavaScript-STAR」[11]を用いて求めた。

表 4.1　読書レポート・アンケート問 1 の χ^2 検定結果（峰本作成）

問１　今回の読書レポートで、あなたの持つ以下の力はどれくらい変わりましたか。

		十分向上した	まあまあ向上した	あまり変わらない	全く変わらない	どちらとも言えない
・文章の表現の特色に注意して読む力	実測値	37	203	117	15	14
	期待値	70.629	184.035	105.124	11.468	14.745
	調整された残差	-4.643	2.027	1.424	1.111	-0.207
	検定結果	**	*			
・文章の内容を的確に読み取る力	実測値	48	208	101	13	15
	期待値	70.446	183.558	104.851	11.438	14.706
	調整された残差	-3.103	2.616	-0.462	0.491	0.081
	検定結果	**	**			
・文章を要約する力	実測値	67	182	112	12	13
	期待値	70.629	184.035	105.124	11.468	14.745
	調整された残差	-0.501	-0.217	0.824	0.167	-0.485
	検定結果					
・文章の構成をとらえる力	実測値	50	170	134	15	17
	期待値	70.629	184.035	105.124	11.468	14.745
	調整された残差	-2.848	-1.5	3.463	1.111	0.628
	検定結果	**		**		
・著者の意図をとらえる力	実測値	64	183	112	13	14
	期待値	70.629	184.035	105.124	11.468	14.745
	調整された残差	-0.915	-0.11	0.824	0.481	-0.207
	検定結果					
・ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする力	実測値	109	182	75	6	12
	期待値	70.263	183.081	104.579	11.409	14.668
	調整された残差	5.361	-0.115	-3.556	-1.705	-0.744
	検定結果	**		**	+	
・相手に応じて文体や語句を工夫して書く力	実測値	72	159	126	12	17
	期待値	70.629	184.035	105.124	11.468	14.745
	調整された残差	0.189	-2.676	2.504	0.167	0.628
	検定結果		**	*		
・論理構成を工夫して書く力	実測値	51	178	125	12	19
	期待値	70.446	183.558	104.851	11.438	14.706
	調整された残差	-2.688	-0.594	2.419	0.176	1.197
	検定結果	**		*		
・自分の主張に基づいて書く力	実測値	100	189	79	6	11
	期待値	70.446	183.558	104.851	11.438	14.706
	調整された残差	4.085	0.582	-3.104	-1.712	-1.034
	検定結果	**		**	+	
・適切な表現の仕方を考えて書く力	実測値	78	193	96	7	12
	期待値	70.629	184.035	105.124	11.468	14.745
	調整された残差	1.018	0.958	-1.094	-1.405	-0.764
	検定結果					
・他人の文章を読んで自分の表現に役立てる力	実測値	100	175	78	15	18
	期待値	70.629	184.035	105.124	11.468	14.745
	調整された残差	4.055	-0.965	-3.253	1.111	0.906
	検定結果	**		**		

+ p<.10　* p<.05　** p<.01

_/_/_ Analyzed by JavaScript-STAR _/_/_

なお、「文章の表現の特色に注意して読む力」から「ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする力」までは、学習指導要領の「読むこと」の指導項目であり、「相手に応じて文体や語句を工夫して書く力」から「他人の文章を読んで自分の表現に役立てる力」までは「書くこと」の指導項目である。

次に、アンケートの問 2ー5 および問 9 の χ^2 検定結果を示す。

表 4.2　読書レポート・アンケート問 2ー5、問 9 の χ^2 検定結果（峰本作成）

		よく当てはまる	まあまあ当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない	どちらとも言えない
問２ あなたの選んだ課題図書は興味深かったですか？	実測値	88	203	62	21	11
	期待値	81.001	160.236	78.647	36.087	29.026
	調整された残差	0.976	4.931	*-2.347*	*-2.942*	*-3.881*
	検定結果		**	*	**	**
問３ 友人の読書レポートはあなたの意見に参考になりましたか？	実測値	148	193	26	5	15
	期待値	81.421	161.069	79.056	36.275	29.177
	調整された残差	9.266	3.674	*-7.465*	*-6.087*	*-3.046*
	検定結果	**	**	**	**	**
問４ 友人のコメントはあなたの意見に参考になりましたか？	実測値	123	175	36	12	40
	期待値	81.211	160.653	78.851	36.181	29.102
	調整された残差	5.822	1.652	*-6.035*	*-4.711*	2.343
	検定結果	**	+	**	**	*
問５ あなたの意見は、友人のレポートやコメントを読んだ後、当初と変わりましたか？	実測値	12	120	177	40	37
	期待値	88.154	174.387	85.592	39.274	31.59
	調整された残差	*-10.292*	*-6.077*	12.488	6.373	1.128
	検定結果	**	**	**	**	
問９ インターネットを通じた読書レポートを今後も続けたいですか？	実測値	42	126	100	73	45
	期待値	81.211	160.653	78.851	36.181	29.102
	調整された残差	*-5.463*	*-3.992*	2.978	7.173	3.419
	検定結果	**	**	**	**	**

+p<.10　*p<.05　**p<.01

_/_/_ Analyzed by JavaScript-STAR _/_/_

次に、アンケートの問 6ー8 の結果を示す。これは回答数と％表示のみとする。

表 4.3　読書レポート・アンケート問 6ー8 の結果（峰本作成）

問６ あなたが最終的に意見を持つ際に、何が一番参考になりましたか？		友人のコメント	友人のレポート	課題図書以外の友人の文章	特にない	
	人数	104	202	7	72	
	%	26.9%	52.2%	1.8%	18.6%	
問７ 読書レポートを、インターネットを通じて書くことについて、一番利点と感じるのは何ですか？		いつでも読み書きできる	友人のレポートやコメントがすべて読める	普段話さない人と意見を交流できる	その他	特にない
	人数	87	185	65	14	35
	%	22.5%	47.8%	16.8%	3.6%	9.0%
問８ 読書レポートを、インターネットを通じて書くことについて、一番欠点と感じるのは何ですか？		掲示板にアクセスする	キーボードで文章を書く	掲示板の問題点	その他	特にない
	人数	106	82	44	33	121
	%	27.4%	21.2%	11.4%	8.5%	31.3%

以上をまとめると次のような結果であった。なお、結果の判定には 5%水準（その事象が起

こる確率が 5%以下）を用いた。

4.1.1　問 1「今回の読書レポートで、あなたの持つ以下の力はどれくらい変わりましたか」の結果について

「向上した」が全体として有意に多かった項目は、「文章の表現の特色に注意して読む力」「文章の内容を的確に読み取る力」「ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする力」「自分の主張に基づいて書く力」「他人の文章を読んで自分の表現に役立てる力」の 5 項目であった。これらは「十分向上した」か「まあまあ向上した」が有意に多く、あるいは「あまり変わらない」か「全く変わらない」が有意に少なかった。「文章の表現の特色に注意して読む力」「文章の内容を的確に読み取る力」の 2 項目に関しては、「十分向上した」が有意に少なかったが、「まあまあ向上した」が有意に多く、全体として「向上した」が有意に多いと解釈できる。

「変わらない」が全体として有意に多かった項目は、「文章の構成をとらえる力」「相手に応じて文体や語句を工夫して書く力」「論理構成を工夫して書く力」の 3 項目であった。これらは「十分向上した」か「まあまあ向上した」が有意に少なく、あるいは「あまり変わらない」か「全く変わらない」が有意に多かった。

全体として特に有意な差がなかった項目は、「文章を要約する力」「筆者の意図をとらえる力」「適切な表現の仕方を考えて書く力」の 3 項目であった。これらは統計的に特に有意な差が見られなかった。

4.1.2　問 2〜5、問 9 のアンケート結果について

「当てはまる」が全体として有意に多かった項目は、問 2「あなたの選んだ課題図書は興味深かったですか」、問 3「友人の読書レポートはあなたの意見に参考になりましたか」、問 4「友人のコメントはあなたの意見に参考になりましたか」の 3 項目であった。これらは「よく当てはまる」「まあまあ当てはまる」が有意に多く、「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」「どちらとも言えない」が有意に少なかった。

「当てはまらない」が全体として有意に多かった項目は、問 5「あなたの意見は、友人のレポートやコメントを読んだ後、当初と変わりましたか」、問 6「インターネットを通じた読書レポートを今後も続けたいですか」の 2 項目であった。これは「よく当てはまる」「まあまあ当てはまる」が有意に少なく、「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」が有意に多かった。ただし、問 6 については、「どちらとも言えない」も有意に多く、「当てはまらない」だけが有意に多いとは一概に言えない。

4.1.3　問 6〜8 のアンケート結果より

問 6「あなたが最終的に意見を持つ際に、何が一番参考になりましたか」では、友人のコメントよりも友人のレポートの方が参考になっている。

問 7「読書レポートを、インターネットを通じて書くことについて、一番利点と感じるのは何ですか」では、「友人のレポートやコメントがすべて読める」と回答した者が多かった。

問 8「読書レポートを、インターネットを通じて書くことについて、一番欠点と感じるのは何ですか」では、「掲示板にアクセスする（掲示板を見ることができない、いちいちアクセスするのが面倒、など）」や「掲示板の問題点（表示が狭い、検索がうまくできない、など）」の項目にも回答者があるが、「特にない」と回答した者が一番多くなっている。

4.2　考察

以上の結果から、次のことが言える。

本実践では、生徒が本を読んで各自が得た読みを読書レポートという形で互いに交流させることにより、生徒の読む力が向上すると考えて実践した。また、レポートやコメントを書かせるので、書く力も向上すると予想された。それがいくつかの点で実証できたと言える。問 1 の結果から見ると、今回の読書レポートの実践は「文章の表現の特色に注意して読む力」、「文章の内容を的確に読み取る力」、「ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする力」、「自分の主張に基づいて書く力」、「他人の文章を読んで自分の表現に役立てる力」を伸長させた。これらは、同じ本を読んだという共通の理解を共有している生徒同士が、互いのレポートを読み合うことによって、本の内容のより深い理解を促すと同時に、それをコメントすることによって、相手意識を確実に踏まえた文章を書くことを促したと考えられる。

また本実践では、読みの交流を効果的に行うために、同じ本を読んだ者同士で、自らの着眼点を示した上でエッセイを書く、という形式のレポートを書かせた。それが効果的に作用したと考えられる。「ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする力」と「他人の文章を読んで自分の表現に役立てる力」が伸長していることから、生徒自身が気づかなかったものの見方、考え方を他の生徒のレポートを読んだり、コメントを付けられたりすることによって示されたと考えられる。特にそれは、問 3、問 4 の結果からも裏付けられる。生徒は他の生徒の読書レポートやコメントが自らの意見を形成するのに参考になったと考えている。

さらに本実践では、読みの交流をより効果的に行わせるために電子掲示板を用い、そして交流に基づいて自分の考えを再びまとめさせることを行った。問 7 の結果によれば、電子掲示板を活用したことによって、生徒同士の読みの交流がより多様に、豊かに行われたと考えることができる。そして、この交流の結果、生徒は自らの意見を深化させることができた。問 1 の「自分の主張に基づいて書く力」が伸長していることから、同じ本を読んだ者のレポートや肯定的なコメントにより、友人の考え方との細かな違いを意識はしつつ、自らの意見と類似する意見に触れることによって、自らの主張を深化・発展させることにつながったと考えることができる。それは、問 5 の「友人のレポートやコメントを読んだ後も、意見が変わらなかった」という結果とも対応している。

一方、本実践における課題もこれらの結果から明らかになっている。問 1 の結果から見ると、今回の読書レポートの実践では「文章の構成をとらえる力」、「相手に応じて文体や語句を工夫

して書く力」、「論理構成を工夫して書く力」などは伸ばすことができなかった。特に、書く力に関する2項目については、「肯定的なコメントを寄せる」というようにコメントの方向性を前もって規定していたことや、レポートとコメントの構成を指定しておくなど、教師側の統制が働いて、生徒自身が自らの力を伸ばすことができなかった結果であると考えられる。

5　結論

以上のことから、本を読んでの生徒の読みを交流させることにより、読む力・書く力を向上させることができた。また、自らの着眼点に基づくエッセイを交流させることにより、生徒にものの見方、考え方をより広げさせることができた。さらに、読みの交流を促すためにインターネット上の電子掲示板は効果的であり、これら一連の実践を通して生徒に自らの意見を深化させることができた。

6　今後の課題

本実践では、電子掲示板という相手が直接見えない媒体を使って読みを交流させるため、コメントの方向性を予め規定して、肯定的なコメントを寄せることを生徒に求めた。しかし、本来は肯定的なものばかりでなく否定的なコメントも生徒自身の考えを深めさせるのに役立つはずである。そうした否定的なコメントも自由に発信できる方法を整えて、実践を継続したい。

また、コメントの書き方やまとめの書き方においても十分な検討ができなかった。今後の課題としたい。

＜注＞

1)　文部省『高等学校学習指導要領』, 1999年, p.19。
2)　吉田新一郎『「読む力」はこうしてつける』, 新評論, 2010年。
3)　同書 p.39。
4)　同書 p.43。
5)　同書 pp.44～45。
6)　竹長吉正『読書レポートの誕生』, 東洋館出版社, 1999年。
7)　同書 p.19。
8)　同書 p.100。
9)　池田修「書き抜きエッセイ」の実践による。今回の読書レポートの実践への適用も、池田氏の許可を得て行った。http://homepage.mac.com/ikedaosamu/kokugo/dokusho_sakubunn/kakinuki.html（2008年6月18日閲覧）
10)　『読書レポートの誕生』, pp.153～158。
11)　中野博幸「JavaScript-STAR version 5.5.7j」による。中野氏からはこのツールの使い方やχ^2検定の特徴などを教示いただいた。http://www.kisnet.or.jp/nappa/software/star/index.htm（2011年3月6日閲覧）

主指導教員（児玉康弘教授）、副指導教員（足立幸子准教授・雲尾周准教授）